Management Club Report

May.2009/Vol.77

Monthly Opinion　≪魅力ある組織としての歯科医院≫

５０歳以上の方は、その昔アメリカ製ＴＶ映画が全盛だった頃に放映されていた『サンセット７７』という番組を、そのテーマソングと共に覚えていると思います。まったく関係ありませんが、今月で *Management Club Report* は数えて７７号目となりました。７７という数字はラッキー７のWですので、今月は会員の皆様それぞれに大きな幸運が訪れれば良いなという思いを込めて『魅力ある組織としての歯科医院』について書こうと思います。

全国の歯科医院に伺って感じることは、患者にとって魅力ある医院にしようと、見てくれを飾る歯科医院は数多くあるものの、そこで働く人間にとって魅力溢れた組織にしようと、中身を高めようとする歯科医院は意外に少ないということです。

歯科医院が単なる歯の修理工場から脱皮して、健康価値を創り伝える存在になり始めてから、世間が歯科医院に向ける期待感の対象は、院長個人から医院の組織に微妙に変化し始めました。

そのような変化の芽を意識しながら一般市民にも認められる『魅力ある組織としての歯科医院』とはどのようなものなのか？またそれはどのようにすれば出来上がるのか？院長のリーダーシップの問題にも絡めて考えてみたいと思います。

軍隊の部隊編制に見る組織の原点

一般的に７～８人前後のチームが、リーダーの考えがきちんと伝わり、まとまりもよく、事業領域も効率的にカバーできて生産性が高いといわれています。逆の言い方をすれば、１人のリーダーがそのリーダーシップ能力を最も高く発揮できるのは７～８人前後の集団ということになります。

組織の原点とも言える軍隊の組織を調べてみても、やはり似たような単位での部隊編制がとられていました。

戦時における陸軍部隊の最小単位は『班』で人員構成は５人前後、班が２つまとまって『分隊』となりますから、１分隊は１０人前後です。

ここまでのリーダーを『班長』や『分隊長』と言い、下士官がこれに就きます。下士官は兵からの叩き上げで経験豊富な現場のリーダー、最前線で兵隊と同じ土俵で働く人たちです。

分隊の上が『小隊』となって、人員は５０人前後の大所帯となり、リーダーには士官が就きます。士官は一般的に士官学校出身者で、現場の叩き上げではないいわゆるエリート軍人です。しかも小隊長は学校出立ての少尉が当たりま